

# 幸世だより

2022年 ー第5号ー

＝発行＝  
幸世自治振興会

＝編集＝  
幸世地域づくり運営委員会  
TEL/FAX(0795)82-5038  
【発行日：令和4年6月】

## ＝令和4年度＝ 幸世自治振興会通常総会が開催されました。

令和4年5月21日(土)午後7時より、大師の杜ホールにて代議員31名の出席と14名の委任状による通常総会を開催いたしました。(代議員総数52名、内欠席者7名)

令和2年3月に地縁団体の認可を受けて以後、代議員制による初めての対面総会となりましたが、任期満了による新会長・新副会長の選任をはじめ、令和3年度事業報告及び令和4年度事業計画等、提出された議案が全て異議なく採決により承認されました。

幸世自治振興会の現況や今後の課題等についての質疑応答もあり、充実した総会となりました。

議事終了後、昨年度まで12年間の長きにわたり、副会長・会長職を務められ地域に貢献されました上村行男前会長に、その功績を称え田中新会長より感謝状を贈呈いたしました。

本総会が、出席者及び関係者のスムーズな進行により無事終了することができましたこと、皆様のご協力に心より感謝申し上げます。



## 笑顔があふれる幸世に

幸世自治振興会 会長 田中健治



水辺に蛍が舞、紫陽花が雨に映える季節となりました。

区民の皆様には平素より自治振興会活動にご理解、ご協力頂いておりますこと厚く御礼申し上げます。

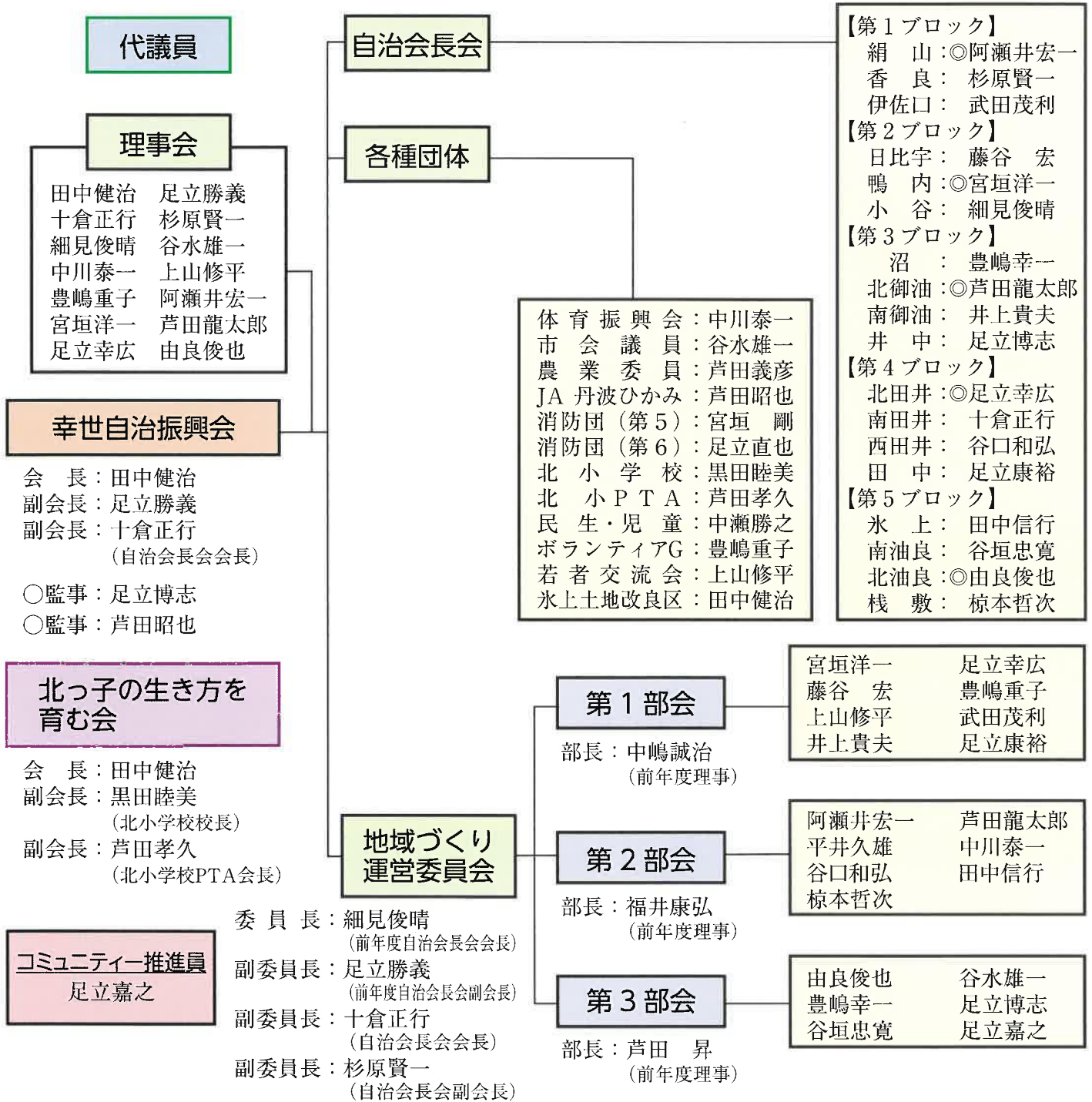
私、この度の役員改選によりまして、4月より幸世自治振興会会長という大役を仰せつかることになりました。誠に非力で未熟な者でございますが、誠心誠意努めさせていただきたいと思っておりますので、皆様の格段のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

さて、自治振興会におきましては、令和2年(2020)4月より認可地縁団体として法人格を取得、新たなスタートをし3年目を迎えました。一昨年からのコロナ禍の中において、新体制での通常総会の開催が2年間でできませんでした。地域づくり事業におきましても市の交付金制度を活用し、『ありがとうがあふれる幸世』をスローガンに始まった“お昼のつどい”や交流施設を拠点として多くの方に集まって頂き『ふれあいあふれる幸世』として催していましたが“幸世元気まつり”等、それまでの様々な事業ができませんでした。そんな中、北小学校の六年生の“街の幸福論”という授業の中で幸世の今と未来について1月に発表会がありました。幸世の観光地の発信や交流イベント等、こども達ならではの発想で、すぐにでもとりいれたい事業提案もあり、“地域のみんなが明るく『笑顔があふれる幸世』になってほしい”など、とても感心させられる内容でした。

生まれ育った地域で学び、絆を深め、やがて地域を担っていく子供たちのためにも、ウイズコロナとして出来る事を探りながら事業計画を検証し、役員の方々と力を合わせて頑張ることに努めてまいります。また、地域づくり事業とは別に8月頃に“飛び出し坊や”を各自治会に配置させて頂く予定にしています。子供たちの安全と安心を守るために役立ててもらえればと思います。振興会ではその他に、認定こども園さちよ、北小学校周辺の草刈り作業も行っています。地域のみんなが、互いに寄り添い、支えあい、助け合って“住んで良かったな”と思える幸世になれるよう、皆様の積極的なご参加とご協力を切にお願い申し上げます。

【令和4年度】  
幸世自治振興会 組織図

◎印：ブロック代表



◆幸世地域づくり運営委員会 ◆ 令和4年度の事業計画・方針 ◆

【第一部会】

人が輝く仕組みづくり

\*川で遊ぼう \*お昼のつどい \*元気まつり \*とんど大会  
\*イルミネーション(幸世若者交流会・北小PTA) \*さちよ未来塾  
他

【第二部会】

防災・自然・歴史ふるさとづくり

\*幸世区民運動会 \*グランドゴルフ大会 \*救急救命講習  
\*卓球大会 \*幸世ふるさとウォーキング \*環境クリーン作戦  
注) 男子ソフトボール大会は、参加自治会が少なく中止となりました。

【第三部会】

人や地域がつながる情報発信

\*広報誌「幸世だより」発行 \*ホームページの更新 \*ポスター作成  
他

# 年間行事 予定

- ・幸世グラウンドゴルフ大会<6月18日(土)>
- ・救急救命講習会<7月7日(木)>
- ・川で遊ぼう<7月17日(日)>
- ・丹波医療センター研修医との懇談会<7月21日(木)>
- ・幸世地区区民運動会<9月18日(日)>
- ・お昼のつどい<9月25日(日)>
- ・幸世元気まつり<10月16日(日)>
- ・幸世ゴルフ大会<10月26日(水)>
- ・幸世ふるさとウォーキング<11月13日(日)>
- ・卓球大会<11月27日(日)>
- ・環境グリーン作戦<12月4日(日)>
- ・イルミネーション点灯<12月1日~1月7日>
- ・とんど大会<1月8日(日)>

(日程等が決定している行事のみです)

## こんなことやっています！ <<じちかい活動の紹介>>

### 氷上区古文書同好会の活動について

氷上区古文書同好会 伊藤導三

氷上区には、江戸時代中期から引き継がれてきた多くの文書が残されています。これら古文書も経年劣化や害虫による破損が進んでいたことから平成26年に有志で保存作業を進めてきました。平成27年からは神戸大学の支援を受けて古文書の目録作成、電子データ化に取り組んできました。平成28年11月には神戸大学から氷上区へ目録冊子の贈呈式、記念講演会、区内の史跡探訪を行うことができました。目録作成は二年近くかかりましたが、多くの区民の方々に参加いただき、神戸大学前田先生のミニ講義、応援に来ていただいた学生さんや大学院生の皆さんを交えての親睦会など、目録の作成作業そのものがイベントような盛り上がりの中で取り組めました。今は、江戸時代の氷上村庄屋であった村上家の文書整理に取り組んでいます。



### ご存知ですか！「<sup>かさかさ</sup>直正ゆかりの勝坂」氷上町絹山『大河』機に顕影

絹山楽笑会 荻野晋平



写真は勝坂看板全景

絹山自治会の行事の時に、「先輩の方から勝坂峠」の歴史をおそわり、「私たちの地にもこんな歴史」があるのかと実感しました。同年代の会「楽笑会」の活動の中でも一度勝坂を歩きたいという声が高まり、のこぎりや鎌を持って軽い気持ちで山登りの気持ちで計画しました。山道は、50cm幅で綺麗に残っており、思ったよりも楽に登る事が出来ました。大きな杉の木が三本程度道をふさいでおり、後にチェーンソーを持って処理しました。しかし、勝坂の歴史を勉強しないと若い人達に正しく伝える事が出来ないとの声も高まり、まず、氷上郷土史研究会の足立義昭会長を公民館にお招きして勉強会を開催しました。気持ちも徐々に高まり、勝坂の歴史を看板にして後世に伝えていこうと決まり、各種資料の取り寄せと内容の精査作業に取り掛かりました。丹波市の観光協会にもお世話になりご指導を仰ぎました。

少しその歴史を紹介します。黒井城主の荻野直正が香良合戦に勝って、黒井城に帰る途中に通ったとして知られる。香良合戦は、今から450年以前の元治元年(1555)、今の香良住吉神社あたりの南地藏ヶ端で連合軍が赤井一族と激突した戦い。勝利した直正は、氷上郡を赤井一族の手中におさめた。直正は、足立新九郎という武将に斬りつけられ、危ないところ馬の口取り役の坂ノ兵衛という家来に助けられた。背におぼわれて逃げる途中「この坂は何という坂か」と問うと「戦に勝つ勝坂でございます。」と返答したことから「勝坂」と名付けられたという。戦いに勝利したものの多くの犠牲を払い、自らも負傷し、気分が落ち込んでいた直正だったが家来の機転で気を取り直し、絹山から由良坂に抜け黒井城へ帰った。

## サークルの紹介

### 「幸世グラウンドゴルフ同好会」



代表 大橋 大三郎

同会の歴史は約25年。幸世地区内の愛好家70名により、毎月曜日と金曜日に幸世交流施設のグラウンドで熱心に練習をされています。(暑さ寒さもなんのその!)。会員相互の親睦と健康の維持増進を目的に、皆さんが腕を磨いておられます。(自治振興会主催の大会にも毎回多数参加され、好成績を残されています。)



## 事務局からのお知らせ

令和3年度、丹波市や丹波市社会福祉協議会の各種補助金を活用させていただき、交流施設の設備・備品の充実をはかることができました。

交流施設内に「free wi-fi」の環境が整いました



非接触型  
高速温度測定器



加湿  
空気清浄機



施設入口改修  
(見通しが良くなりました)



ポータブル  
発電機

アルコール  
自動噴霧器



「ふれあいサロン」  
呼び込み用幟



## = 上村行男様 お疲れ様でした =

長きにわたり、幸世地域のためにご尽力  
いただきありがとうございました。



上村前会長は、平成22年4月より副会長を2期4年間務められた後、令和4年3月まで4期8年間の長きに亘り、会長として幸世地域の発展と住民相互の交流に多くの足跡を残されました。

ご在任中は、常に18自治会の先頭にたって行動され、年度事業の実施やさまざまな課題解決に向けたご活躍がありました。

なかでも、平成26年8月に発生した「丹波豪雨」では、いち早く地区内の全自治会を巡回され、災害状況の把握と復旧に向けた支援活動にご尽力されています。

また、ご退任後最も思い出深いと話されたのは、平成25年頃に表面化した「幸世の水問題です。「幸世は幸世の水が飲みたい！」のローグンを掲げて問題の追及と解決に奔走され、現在の「東芦田水源」の運用方法に道筋をつけられました。

この2年間は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、思うように事業が出来ず残念だったとの感想を漏らされておられましたが、今ある「幸世地域づくり運営委員会」をはじめ「ボランティアグループ」や「若者交流会」も上村前会長時の創設であり、幸世自治振興会の活動基盤となっています。



広報誌担当の第3部会メンバーのチームワークで6月号を発行することができました。また、新たな事業の「幸世ふるさとウォーキング」(11月13日予定)では、今回掲載の絹山「勝坂」と前号掲載の香良「独鈷の滝」を訪ねる計画です。コロナ禍でも出来ることを考え事業を実施していきたいとの新会長の思いも強く、是非各種事業にご参加いただきますようお願いいたします。